

2013 年度 日本生活学会事業計画

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

I. 事業活動

- 第 40 回総会・研究発表大会開催（横浜市） 2013 年 6 月 1 日（土）～2 日（日） 神奈川大学横浜キャンパス
- 今和次郎賞 2012 受賞記念講演（東京）予定
- 吉阪隆正賞 2012 受賞記念講演（東京）2013 年 6 月 27 日（木）18:00～ 東洋大学白山キャンパス

II. 役員会開催

1. 理事会
2. 常任理事会
3. 『生活学論叢』 vol. 23、24 編集委員会
4. 今和次郎賞 2013 選考委員会
5. 日本生活学会研究論文賞 2013 選考委員会

III. 出版物発行・メールニュース配信

- 2013 年 6 月 「第 40 回研究発表大会梗概集」 2013
- 2013 年 9 月 『生活学論叢』 vol. 23
- 2014 年 3 月 『生活学論叢』 vol. 24
- 日本生活学会メールニュースの配信

IV. 委員会活動

1. 総務委員会 委員長 野村知子

- (1) 総会、理事会他運営
- (2) 庶務・財務・会計の管理
- (3) 生活学論叢への学会記録掲載
- (4) 理事選挙（2014-15 年度）
- (5) 監事選挙の実施

2. 学術委員会 委員長 澁谷利雄

- (1) 開催大学を中心に第 40 回研究発表大会を開催する。
- (2) 研究会活動を活発化し、その成果を『生活学論叢』に投稿するよう促す。
- (3) 若手研究者の育成、支援のための企画を提案する。

3. 『生活学論叢』編集委員会 委員長 塩月亮子

- 『生活学論叢』第 23 号、第 24 号の刊行
- 第 23 号 2013 年 9 月発行予定
- 第 24 号 2014 年 3 月発行予定

4. 事業委員会 委員長 中谷礼仁

- (1) 2012 年度以降には事業委員を拡充した。
2013 年度は生活学についてのセミナーやシンポジウムなど、生活学の更なる若返りを図るべく、より積極的に企画する。
また、増えつつある様々な分野の会員からの、事業企画への提案をさらに募る。
- (2) 第二回吉阪隆正賞
2013 年 6 月 27 日（木）18:00～ 東洋大学・白山キャンパスにて開催予定。
- (3) 今賞受賞記念講演

5. 情報委員会

委員長 佐藤宏亮

- (1) 学会ホームページサーバー管理
- (2) 日本生活学会メールニュースの配信
- (3) 会員相互の交流機会の拡充（会員プロフィールの作成や情報交流サロンの開催など）

6. 生活学ヘリテージ・プロジェクト

代表者 小林多寿子

- (1) 生活学会の名誉会員を中心にインタビューを実施し、記録に留める。
- (2) 研究発表大会の場で会員にプロジェクトを紹介する。
- (3) 学会の財産として管理保存し、公開する方途を考える。

V. 研究会活動

1. 生活情報化研究会

代表者 佐藤佳弘

- (1) 研究会の開催
回数：4回／年度
時期：2013年6月・7月・9月・2014年3月を予定
場所：東京都内（港区麻布台で開催の予定）
形式：外部講師を招いて講演、およびディスカッション
- (2) 研究会冊子の作成 2013年10月に Vol.16 を発行

2. 国土開発史の研究会

代表者 真島俊一

- (1) シンポ形式となった研究テーマ(仮)：「伝統的な住いと近代の住い—道具から見る生活の変容過程について—」

■参加者：生活学会会員、国土開発史研究会会員、地域工務店の皆さん
■発表方式：8回ほどの連続報告と報告書、中締めとして公開研究会を検討中
■内 容：＊デザインサーベイの始まりと終焉、家業の時代の暮らしと道具
＊今和次郎が始めた絵で考える生活学-大正、昭和初期のころ
＊サラリーマンの時代の暮らしと道具、衣食住の工業化
＊家電製品のある間取りが近代的か？ など
■開催時期：平成25年6月頃に1回実施予定。
- (2) 道具の名称と分類の研究（あと2年ほど継続予定）
道具の系統樹の作成試案など行う予定。

(3) 和船の研究報告

かつてトヨタ財団の助成を受け全国調査を行ったものをまとめて報告会を行い書籍刊行する準備にはいる。3年ほど継続する。視点としては、船の名称と構造分類、船型と用材の分別、船型の地域的な分布、漁村の空間構造、港町の国土開発的変容など。

3. 生活文化研究会

代表者 秋野晃司

- (1) 研究会（公開講演会）の開催
回数：4回／年度
時期：2013年4月・7月・9月・2014年3月を予定
会場：関東圏（女子栄養大学構内等で開催の予定）開催予定
形式：外部講師を招いての公開講演会および共同討論

以 上